



発行日：平成 29 年 10 月
編集・発行：矢作川流域圏懇談会 事務局

◆第 42 回川部会WGを開催しました！

9月29日（金）に第42回川部会WGが開催されました。今回のWGでは、本川と支川の連続性という観点から平成28年度に完成した矢作古川分派施設を視察した後、矢作古川頭首工に新たに整備された魚道を視察し、みなさんと意見交換を行いました。



日時：平成 29 年 9 月 29 日（金） 13:30～16:30
会議場所：西尾市役所多目的室
参加者：24名（事務局含む）

◆主な活動内容

1. 矢作古川分派施設を見学しました。



- ・矢作古川分派施設は、矢作古川への分派量を適切にコントロールできる機能を備えた設備です。
- ・分派堰は、通常時は常に開放されており、魚類の遡上・降下を妨げない構造となっており、本川と矢作古川の連続性が確保されています。
- ・事業による魚類への影響を把握するため、施工前、施工中、施工後にモニタリング調査を実施した結果、施工中、施工前は流量が少なく、流れが緩いため外来種が多く生息していたが、生息後は流れができたため、外来種は減少し、施工前に確認された重要種は施工後も生息が確認されています。
- ・参加者からは引き続き、魚類の生息状況についてモニタリングを行ってほしいという意見がでました。



2. 矢作古川頭首工魚道を見学しました。



- ・矢作古川頭首工は、昭和39年（1964年）に完成した農業用取水堰です。
- ・この頭首工には魚道施設が設置されなかったことから、上下流間を移動する魚类等水生生物にとっては阻害要因となっていました。
- ・矢作川流域には上流と下流を行き来する魚種が多数生息することから、矢作古川の河川環境および生態系の保全を図ることを目的に魚道を設置することになり、平成28年度に完成しました。
- ・今年度は魚道内遡上する魚類の利用状況について調査を実施しており、河口から遡上してきた稚アユが確認されています。



3.意見交換



●出席者による主な意見交換内容は、以下のとおりです。

(・意見 ▶回答)

- ・矢作川分派施設で実施されている魚類のモニタリング調査結果について、施工前に確認されて、施工後に確認されていない魚種がいくつかみられるが、何らかの原因があると思われる。施工後1年だけの調査で終わるのではなく、3年後、5年後も継続的に調査を実施してほしい。また、その調査はどこが主体となって実施するか教えてほしい。(浅田)
 - ▶ この調査は豊橋河川事務所が実施している。1年で傾向がつかめるとは思っていないので、引き続きモニタリングは実施する方針である。(事務局)
- ・分派施設の魚類のモニタリングについて魚類の専門家のアドバイスを受けていないようなので、ぜひお願いしたい。施工前と施工後の魚類の捕獲数の違いは自然変動の範疇なのか、何か生息環境の変化が考えられるのか、専門家の意見を伺いながら考察するのがよいと思う。(内田)
- ・分派施設の下流側で、魚類の生息環境を確保するため、河床に傾きを設けた底板を設置し、流量が少ないときでも水深が確保できるように配慮したとされているが、現状で砂がたまっているため、どのように配慮された視覚的には把握できない状況となっている。(本守)
 - ▶ 施設の状況については定期的に巡視しており、必要に応じて機能が担保されるよう維持補修を実施する方針である。(事務局)
- ・分派施設の上流側は開削して水を流れやすくしたというが、上下流は一様に平坦な状況となっている。今後、砂が堆積して水際に植物が生育する可能性が高い。そのような環境を残しながら、水を流すような維持管理をお願いしたい。上流側に砂がたまって、頻繁に開削する必要はないか?(内田)
 - ▶ 日常巡視を実施して、必要に応じて維持管理を実施していく方針である。砂が堆積して、樹林化していく問題もあるので、そのあたりを加味しながら管理していきたい。(事務局)
- ・近傍に猛禽類の繁殖巣があり、分派施設周辺の河川敷は餌場として利用されている。このあたりは樹木が伐開されている箇所が多いことから、今後どのように自然回復するか気になるところである。また、今後の整備で残せる樹木はある程度残すなどの配慮していただきたい。(高橋)
- ・海の現状を報告すると、三河湾は現在生き物にとって良くない状況となっている。三河湾を守るには原点である山や川が良くなければならない。海の環境を守るためにも、山や川と連携して色々なことを取り組んでいきたい。(石川)



●振り返り

よかったと思うこと：矢作古川分派施設の設置による魚類への悪影響がみられなかったこと。頭首工に魚道が設置され、生態系への良い影響が期待できること。／海部会からの参加があった。／市役所での現地見学の会議で多様な意見交換ができた。

今後取り組んでいきたい活動：矢作古川分派施設の多自然工法によって生態系がどう変わるか観察する。／古川頭首工の魚の移動状況を確認したい。

今後の流域圏懇談会の予定



■第43回川部会WG

※詳細日時はMLにて決定します。

日時：平成29年10月27日(金) 午後

内容：〈本川モデル〉加茂川水門堰上げ式魚道の視察、矢作川“かわまちづくり計画”の紹介など



◆お問合せ◆

矢作川流域圏懇談会事務局

〒441-8149 愛知県豊橋市中野町字平西1-6 国土交通省豊橋河川事務所 調査課 服部

TEL 0532(48)8107/FAX 0532(48)8100

*矢作川に関する情報は、矢作川流域圏懇談会メーリングリスト(yahagigawa@ijinet.or.jp)までお送りください。

